

R7年度 荻谷小学校 学校評価のまとめ

12月上旬に実施した「教育活動診断票（アンケート調査）」へのご協力、ありがとうございました。その結果をもとに、1月29日に「学校運営協議会」を開催し、10名の委員の方とアンケートの分析を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

- 対象 保護者全員（回収率96.4%）児童 4年生以上（135名）
○分析 4段階評価のうち、よくあてはまる（そう思う）とややあてはまる（だいたいそう思う）を合わせたものを肯定的評価ととらえ、それをもとに行ってています。
※数値に付けた矢印↑又は↓=前年比5ポイント以上、↑↓=10ポイント以上の変化を表しています。

<本年度の重点努力目標>

①「かしこい子」（知）の育成に向けて

（・「学ぶ」教室への意識改革と子ども同士が学び合い高め合える教室コミュニティの創造　・体験活動を重視した学習展開　・子どもの学習スタイルの確立）

B

・授業は分かりやすい	(児: 83.7%) ↓	保: 81.7% →)
・進んで意見や感想を発表	(児: 54.8%) →)	
・ペアトークの充実	(児: 80.0%) ↓)	
・話をしっかりと聞く	(児: 91.9%) →	保: 80.8% →)
・考えや振り返りを書く	(児: 83.0%) →)	
・家庭での学習（児童：自主的）	(児: 73.3%) →	保: 72.5% →)
・読書が好き	(児: 54.8%) ↓	保: 41.3% →)
・タブレットの授業が好き	(児: 88.1%) →)	

※昨年比: → (±5%) • ↑ (5%~10%) • ↓ (-5%~-10%) • ↓↑ (±10%以上)

「授業は分かりやすい」は、年々順調に向上していき過去最高を記録した前年度より約10ポイント近く下降した。これは、「自分の意見を発表する」ことや「自主的な学習」にもつながっている。「自分の意見を発表する」は、この10年間50~60%台、「自主的な学習」は、5年間70%台と他の項目と比較して低調である。ペアトークやふり返りが定着してきているので、自信をもって自分の考えや思いを伝え、自己の学びを高めていけるよう実践を積み重ねていきたい。また、「自主的な学習」については、ここ数年は70%台後半を維持してはいるが、過去をさかのぼると、タブレットの使用を開始した令和2年度にそれまでの85%以上から急落し、それ以降はずっと今のような状況である。タブレットの使用と自主的には学習に関連性があるのかを検討する必要があると考える。読書については、昨年度7割以上となったが大きく下降した。今後も、図書委員会が企画するイベントや本の紹介、読み聞かせボランティアの方々の働きかけと保護者への呼びかけを継続したい。

②「あかるい子」（徳）の育成に向けて

（・体験活動を充実し、人のために働く荻谷小文化の創造　・道徳教育での自己内対話の重視　・折れない心の教育　・道徳教育、キャリア教育の充実）

B

・学校へ行くことが楽しい	(児: 83.7%) →	保: 87.1% →)
・あいさつや返事	(児: 94.1%) ↓	保: 82.5% →) ※1
・約束やきまりを守る	(児: 83.0%) ↓	保: 82.9% →)
・係活動やそうじに進んで取り組む	(児: 94.8%) →)	
・学級の子や異学年の子との協力	(児: 93.3%) →	保: 91.7% →)
・学校行事は楽しい	(児: 85.2%) ↓	保: 92.1% →)

※1: ⑤とあわせた質問

「きまりよく」の校訓のもと、全体としては落ち着いた生活が送れている。学級の子や異学年の子との協力や縦割りの活動も充実しており、学年を超えて良好な友人関係が築かれ、温かい心が育まれていることを感じる場面が多く見られた。この姿は、本校の特徴でもあり、登下校の安全も含め、上級生から下級生に良い伝統が受け継がれているので大切にしていきたい。下降して

いる項目もあるが、いずれも 80%以上の高い自己肯定感があるので、今後も継続して児童の姿を注視していきたい。

③「げんきな子」(体) の育成に向けて

- (・「すこやかタイム」を生かしたバランスのとれた体力づくり
・学校保健委員会の充実と食育の推進　・防災・安全教育の推進)

B

・早寝・早起き・朝ごはん	(児：71. 9% → 保：84. 6% →)
・体力向上への取組み	(児：77. 0% ↓ 保：92. 1% →)

「早寝・早起き・朝ごはん」は、保護者が観察できる項目であるにもかかわらず児童・保護者の両者に差がある。児童の判断基準が厳しく、生活習慣が崩れている可能性は低いと考えられる。意識が保たれるよう、学校保健委員会、食育や保健の授業、保健委員会の取組み、保健だより、給食だよりといった地道な取組みを継続していきたい。「体力向上への取組み」については、内容に変化はないが今年度大きく下降した。昨年度が例年と比較して大きな値を示していることもあるが、児童が飽きないような内容を取り入れるなど工夫する必要がある。

④安心・安全で生活しやすい環境づくりに向けて

- (・「心の居場所」づくりといじめの未然防止・早期発見　・個別の支援)

A

・ルールを守った情報機器の使用	(児：80. 3% ↘ 保：71. 3% →)
・相談できる友達がいる	(児：84. 4% ↗ 保：79. 2% →)
・子どもが先生に相談	(児：65. 9% → 保：75. 0% ↗)
・学校のことをよく話してくれる	(保：87. 9% →)
・先生と子どものことを相談	(保：88. 3% →)
・通学班で安全に登下校	(児：91. 9% → 保：94. 6% →)
・いじめや問題行動への指導	(保：89. 6% ↗)
・良さを見つけ、認め、励ます指導	(保：89. 2% ↗)

児童と教員との関係を示す「子どもが先生に相談」は、値は低いがここ 10 年でみると 3 番目に高い値である。保護者に高い評価をいただいた「良さを見つけ、認め、励ます指導」を職員全体で取組み、信頼関係がより強固となるように継続したい。教員と保護者との関係を示す、「先生と子どものことを相談」は、この 3 年間で大きく向上した項目であり、今の状態を維持できるよう今後も意識して取組みたい。児童同士の関係については、「相談できる友達がいる」の項目が昨年度大きく下降したが、今年度取り戻した。今の雰囲気を大切にしていきたい。

安全部面については、概ね高い評価であり、登下校や放課での行動、タブレット（電子メディア）活用のルールの遵守に今後も注視し、見守っていきたい。保護者に対しても便り等で呼びかけ、子どもたちの健康的な生活習慣形成のために家庭と連携していきたい。

⑤学校・家庭・地域の連携・協働に向けて

- (・通信、H P 等の充実　・地域の教育資源（ひと・こと・もの）を活用した「特色ある」教育活動の展開)

A

・地域の人へのあいさつ	(児：94. 1% ↘ 保：82. 5% →) ※1
・教育活動等の情報発信	(保：92. 9% →)
・不審者のへの対応	(保：92. 1% →)
・自然災害への対応	(保：92. 5% ↗)

※1 : ②とあわせた質問

今年度は、学校ボランティア制度を開始した。サツマイモ栽培や 5 年生の稲作、3 年生のイチゴ栽培、クラブ活動、プール監視、読み聞かせ、親子活動、美化作業、資源回収、交通立ち番等、保護者並びに多くの地域の方々にご指導いただきながら安全に留意して教育活動を進めることができた。今後も、学校の様子をホームページ等で広く発信し、多くの人に学校の取組みを知ってもらい、地域コミュニティとの関わりを保っていきたい。また、最近多く発生しているゲリラ雷雨等、自然災害への対応についても、スムーズな引き渡しができるよう対応を工夫していきたい。